



最大積載量28・9トのトレーラーダンプ。骨材の輸送に使う

トレーラーダンプで効率化

塚原石産興業 人手不足に対応

道路やコンクリート構造物に使われる砕石・骨材を生産販売する塚原石産興業(岡谷市)は、骨材輸送用に最大積載量28・9トのトレーラーダンプ1台を導入した。一般的な10トトラックの3倍近い骨材を一度に輸送できる。慢性的な人手不足に対応。輸送の効率化で二酸化炭素の排

出による環境負荷を低減する。県内では業界初の試みという。

車両の全長は11・7メートル。けん引車は日本製、トレーラーはドイツ製で、約4千万円かけて導入した。安曇野市にある採石工場に配置。数多く数々に加工した骨材を松本市内の生コン業者の工場3カ所に

運ぶ。積載量を確認する測定機なども大きな車体に対応させる必要がある。車両とは別に約6千万円を投資した。

同社の従業員は約40人、協力会社を含めると60人で、半数近い30人が輸送業務に携わる。深刻な人手不足に対応するため、3年前からトレーラーダンプの導入を検討してきた。輸送効率の向上で燃料費の削減や渋滞によるロスの低減といった効果も見込む。

同社が保有する輸送用車両は23台。うち22台が10トトラックだ。今回に続き、トレーラーダンプをさらに3台導入する計画もある。塚原基成専務は「社会や環境への負荷が低減できる。今後のスタンダード(標準)にしていきたい」としている。

同社が保有する輸送用車両は23台。うち22台が10トトラックだ。今回に続き、トレーラーダンプをさらに3台導入する計画もある。塚原基成専務は「社会や環境への負荷が